

シルクロード交易の民ソグド人とは いったい何者だったのか?

ソグド人の 美術と言語

曾布川寛 京都大学名誉教授 (中国美術史)

◆中国・東洋美術の図像学的研究の第一人者。小学館『世界美術大全集 秦・漢／三国・南北朝』の責任編集を務める。

吉田豊 京都大学文学部教授 (イラン語史、中央アジア出土文献研究)

◆昨秋、世界で初めてマニ教「宇宙図」の図像を発見し、全国紙各紙で注目。NHKスペシャル『文明の道』番組本執筆や、テレビ東京「封印された三蔵法師の謎」出演など活躍。

臨川書店刊

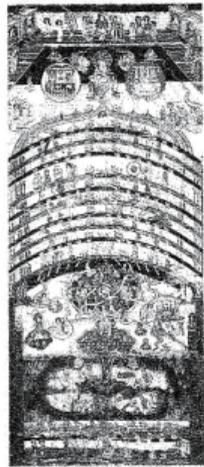
■A5判・上製336ページ 定価3,780円(税込)

マニ教「宇宙図」現存

国内で個人蔵 京大教授ら確認

3世紀に誕生し、善悪二元論を教義として世界的な宗教に発展しながらも滅びたマニ教の宇宙観を、描いたとみられる絵画が国内に存在することが26日までに、京都大学の吉田豊教授(イラン語史)らの調査で分かった。10冊の天と8冊の大地からなる「宇宙図」の

マニ教は布教に教典のほか絵画も使っていたとされるが、絵画は散逸。宇宙観は教えの根幹につながるもので、今回の発見を公表した国際マニ教学会で「画期的」と



マニ教の宇宙観の全体像を描いたとみられる絵画「宇宙図」(京都大学教授蔵)

高い評価を受けた。吉田教授は不明な点が多いマニ教の解明につながる」と話している。

吉田教授が「宇宙図」と呼ぶこの絵画は、現在国内で個人が所蔵している。縦1307・7センチ、横56・8センチで、絹布に彩色で描かれている。仏教絵巻との比較などから、中国の元(1271～1368年)、またはその前後に、現在の浙江、福建省省や江南地方の絵師が制作したとみられるという。

日本に渡った時期などは不明。吉田教授らは、マニ教僧侶の特徴である赤い線取りの入った白いショールを着た人物が描かれていることや、中国・新疆ウイグル自治区で見つかっているマニ教史料との照合などから、マニ教の絵画と断定した。

毎日新聞 2010年9月27日朝刊